

奈 建 第 229 号
平成 20 年 10 月 16 日

国土交通省道路局長 殿

岡山県奈義町長 花 房 昭 夫



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

このことについて、別紙のとおり提出します。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

岡山県奈義町

当町を走る国道はほぼ改良は終えているが、昭和の時代に改良を行った部分が多く、歩道が無い区間、歩道とは言えないような区間、歩道はあってもマウンドアップによりシニアカーが通れなかったり転倒を起こすような区間がある。高齢化社会へ向かうなか、こういう路線の整備を早急に行っていただきたい。

道路を整備する場合、道路構造令等に基づき、その時点での基準により必要最小限の用地買収を行い、整備を行っている。先にも書いた歩道の例であるが、以前は幅員1mの歩道も作られており、また、歩道の設置を行っていない道路もある。そのような道路の多くで歩道の拡幅・新設が緊急の課題となっている。そのため再度の用地買収が必要となることはしかたのないことではあるが、住宅等の再度の移転は、地権者の感情を害する場合もあり、国民の目からみれば税金の無駄使いに見える場合もある。

構造令では、交通量、歩行者数等により車道・路肩・歩道等の幅員を定めているが、今後の高齢化社会を考慮すると現在の基準も変わっていくものと考えます。年少者・高齢者・障害者等にとって道路が危険な場所となるのではなく、安全な道路・憩える空間となるよう、基準は柔軟に運用出来るよう考え方を改め、再び用地買収をしなくてもすむような、ゆとりのある、道路整備を行っていただきたい。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ②

②-1 地域の現状と抱える課題

岡山県奈義町

○現状

当地域は岡山・津山から鳥取への沿線に位置しているため、物流の幹線道をなしており、大型車の通行も多い。また、農村部にあるためスピードを出しやすく、死亡事故のような重大な交通事故も頻繁に発生している。

農村部の道路の路肩は雑草が生い茂っている。子供の通学、老人の通行、車の見通しの確保に影響をあたえている。法面の長いところでは藪のような状態になりゴミ捨て場になっているところもある、景観・環境等の面からも好ましくない状況がある。

当町の現在の道路は、昭和 38 年の豪雨により被災した橋梁復旧からはじまっている。そのため多くの橋梁・路面・側溝等の老朽化が進んでいる。

○課題

当地域では高齢化率が高く、買い物や病院に行くためには、動けるうちは車の運転を行い、運転が出来なくなるとシニアカーで動く傾向がある。このことは一般の運転手の方には、相当神経を使うことになっており、これらは今後増えていく傾向があるため緩和の方策を行う時期にきている。

草刈の回数が少ないため、危険な状態が長く続いており、また、手をつけられない箇所もある。これらの解消が必要である。

橋梁が耐用年数といわれる架橋後 50 年を迎えようとしており、これらの調査、架け替え、或いは長寿命化への改修等多額の費用負担が目前にひかえているが、高率の補助制度がなければたちゆかない。また、路面・側溝等補修費用にも限界があり、補助の充実が課題である。

②-2 地域の目指すべき将来像

岡山県奈義町

これからの道路にもとめられるものは、高齢化社会へ向かう中で、家から出ると先ず道路に出るわけであるが、その場は交通弱者が注意をするだけでは安全な空間にはならない。また、ドライバーが注意をするだけでも交通事故はなくなるだろう。家から出た空間が安全で安心な空間でなければならない。さらに、高齢者を家に閉じ込めないためにも憩いの場・集いの場としての整備が必要となる。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

岡山県奈義町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○ その他
高齢化社会への対応	拠点病院等へのアクセス道の充実 マウンドアップ型の歩道、狭い歩道、歩道未整備箇所の改善 追い越しレーンの整備	病院への通院が高齢者でも容易にいける。 シニアカーでも危険を感じないで通行できる。 高齢者の低速運転でも交通の流れを妨げない。	
拠点都市のアクセス改善	都市部での渋滞緩和のため、高架・バイパス等整備	時間の無駄が省ける。 燃料の節約等環境対策になる。	